

家庭科教育

烟口昌子

なぜ考えるのか

昭和三十八年、現行学習指導要領が学年進行で実施されるはじめこの年に私は高校に入学しました。それまで選択科目の一つであった「家庭一般」が女子のみ四単位必修となり、一二年が二

卷之二

特性論に立て、女子に前記のような家庭を作る役割を押し付けているといふこと。

現在の家庭生活をより豊かに、より充実したものとするため、何

が障害があり、どうすればよいかを考えさせなくては、家庭科を学ぶ意味がないと思うのです。ところが、現在の矛盾に満ちた家庭を中心、現体制がその矛盾を生みだして、ある事にほど気がつかず、に住むような教科内容になつてゐるのです。

尊重要領において、特に男女の特性を考慮し……と、女子は家庭に入り、子供を生むものだという考え方から、四単位全面必修と家庭科の比重が大きくなりました。ところで、男子の特性、男らしさは何かというと結局、「体力づくり」ということになります。女子の家庭科の裏番組として「格技」をやることになりました。ある方向へ強い力で押し流されてしまうことがあります。危機感を感じずにはいられません。

問題二

オニに、明るい樂一ハ家庭を作
るということが、大目的ヒーと前面
に押一出されてゐるといふこと。そ
れ自体には誤りはないと思うので
すが、家族關係に潜む社會的矛
盾と、その解決に取り組むといった
科學的発想に立たない單なる
ヒード的な“家庭づくり”だから問題
なのです。

家庭科という生活に密着した、生活の現実を正しくみつめるべき教科に何故、社会に対する正い、認識を与える教材が組まれていなゝのぞ——。自分の家庭のわくの中で、やりくりじようすに家庭経営することによって、家庭の一あらせがあるので——う考え方。このような幻想によつて家庭内に根づよく残る封建性、低賃金、物価高による家計費の膨張に苦へんでも、なお矛盾を矛盾と——感じて疑問を持つことを避け、電気器具の普及による少しばかりの便利さを、文化的生活だと思へ込まされていく。家計簿をつけ、予算をたて、決算し、赤字を出さない、貯蓄にはげめ、電気器具等を購入——家庭生活を能率化せよ、と教科書は教えていきます。でも、そのようにできなゝ家庭があるのは、何故なのかな。又何のために能率化するのか、生活の目標は何なのか、といふ疑問に對一時は、何も答えてはいなゝのぞ。憲法二十五条にある権利、「健康にて文化的な最低限度の生活」とはどういう事なのか、衣食住保育を

御都合に迎合一しているといふこと。
ヨミに、実用主義の立場からみ、生活改善、技術習得を中心としており、衣食住の技術習得がすべて、といった教科内容であるといふこと。
第四に、これらすべてが、男は男らしく、女は女らしくという男女特性論に立て、女子に前記のような家庭を作る役割を押し付けているということ。
現在の家庭生活をより豊かに、より充実したものとするために、何が障害があり、どうすればよいかを考させなくては、家庭科を学ぶ意味がないと思うのです。ところが、現在の矛盾に満ちた家庭を中心、現体制がその矛盾を生みだしていく事にほど気がつかず、に住むような教科内容になつてゐるのです。

そぞろじで実施すべきだと思ふま
す。実習すること。即ち「ハンバー
グステーキが作れる」「スカートが
縫える」。これは学校教育を行な
う意味は少しもないとと思うのです。
これまで述べてきたような家庭
科の位置づけが正い、とすれば
当然この教科は男女共修でなけ
ればならぬのではないでしょうか。
生活の中で實際にちがつた役割
をもつ男子と女子だからこそ、
男女同時に「人間」を考え、
「生活」の意義を学んでいく必要
があると思うのです。男女そ
れぞの生活同期の中での男女
の可能性を追へ求めていくと
いう事などと思ひます。
このような考え方から、「家庭
一般」を「生活学」と改称し、
男女共修を主張します。
現在、女子のみではありますが、
「家庭一般」の教科内で、自主編
成した教材で、正しく認識を
育て、自立した生活主体者を
育てる家庭科教育をめざ
して、戦苦闘しています。
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

他の生活の必要十分の条件は何なのかをはつきり知ろうとすることが大切です。そこでその条件に照らした時、現実の生活にどのような問題や矛盾があるのか、何故そういう矛盾があるのかを社会との関連の中で明らかにし、それをいかに解決していくか、たらいのかと考えていく、このようないくつか家庭科教えるの一つた方向づけが必要だと考えます。

衣食住等の分野では、現行のように、その技術習得や、羅列された知識の暗記を目的とするのではなく、食生活、衣生活、住生活等の基本的な原則を知り、考え、現実の生活への正しい姿勢を養うと、うことを目的といたします。即ち「ハンバーグステーキが作れる」「スカートが縫える」等は学校教育を行なう意味は少しもないと思うのです。これまで述べてきたような家庭科の位置づけが正い、とすれば、当然この教科は男女共修でなければならぬのではな、どうか。生活の中で実際にちがつた役割をもつ男子と女子だからこそ、男女同時に「人間」を考え、生活の意義を学んでいくと、いう事などと感じます。男女それぞれの生活同期の中での可能性を追ふためでいくと、このような考え方から、「家庭一般」を「生活学」と改称し、男女共修を主張します。

現在、女子のみではあります、「家庭一般」の教科内で、自主編成した教材で、正しく認識を育て、自立した生活主体者を育てる家庭科教えるをめざして、悪戦苦闘しています。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

共同体も人間の生活単位である限り、家族・家庭しきつをもつ。家族は国家の最小単位というか? (34)

未来信

今
眞治
さんより

地をなんとかできないものが物色してみました。その結果一ヶ所はやる気がへ労力的、財政的にあれば土地の方は都合がつくことになります。場所的にへ交通の便」は岡山市から郊外へ四五kmくらいのハイウェイで五〇分へ海拔四〇〇mくらいの高原です。できれば来年の春から土地を借りてもう形で開墾をはじめています。規模は山林五ha田畠一ha、労力的に人数が確保できれば山林一〇haニ五ha田畠三〇haも話をすればなんとか借してもらえてます。

畑の方もさくが完備しましたし、大根などの播種も一応終え、きのう十六日に山へ行つてみたのですが大根はもとより、カボチャ、コカブ、レタス・ジャガイモなど、いづれも発芽していました。イノシシも今のところ侵入できないで、農作物は無事育っていました。

オ一回オ二回の援農も終つて、オ三回目の援農も七、八月に計画して下さつているようですが、こころでもつと具体的な問題（E.Z.・形態、財政面、連合のしかたなど）についてお互いの間で、つぶこんだ話もしていきたいと思うのですがいかがでしょうか？

それから一回目も二回目も共に、ぼくの方からのみ作業などを提起しそれを応援してもらう形だったのですが、やはり、そちら側からも、作付品目や、仕事のやり方などについて、どんぐん注文してもらつた方がもつと面白いのではないかと思います。といいますのか、尾閥さんの云われてきた共同体ーーとりわけ現実に社会改革にアタックし得る共同体を單なる理念ではなく実際のこの社会の中に築いてゆくためには、いわゆる「援農」だけでは、とうていダメなのです。ではないかと思うのです。

もちろん援農してくださるのは、こちらにとつてはありがたいのですが、その援農を通して、各人一人一人が自分自身の活動を深化させ、状況に向つてステップする契機としていかなければ、単なる自己満足に終つてしまふような気がしてなりません。ぼくは何も、あの備備開拓に、常住して共同体をいつしよにやつてゆく仲間を今の段階で捜そうとは思つてもいません。むしろあそこでいつもやりたいのです。そして一つでも二つの人には他の場所を開拓してもらいたいのです。そして一つでも二つでも多くのそつした場所を開拓してもらいたいのです。

B.O.Y. ONE PART方式でつ

ただ山の難点は少し傾斜があるのと石ころが喫在していること。もしここを開発できれば、乳牛か、肉牛、鶏などの飼養も可能ですが、畑一ha、労力的に人数が確保できれば山林一〇haニ五ha田畠三〇haも話をすればなんとか借してもらえてます。

ただ山の難点は少し傾斜があるのと石ころが喫在していること。もしここを開発できれば、乳牛か、肉牛、鶏などの飼養も可能ですが、畑一ha、労力的に人数が確保できれば山林一〇haニ五ha田畠三〇haも話をすればなんとか借してもらえてます。

ただ山の難点は少し傾斜があるのと石ころが喫在していること。もしここを開発できれば、乳牛か、肉牛、鶏などの飼養も可能ですが、畑一ha、労力的に人数が確保できれば山林一〇haニ五ha田畠三〇haも話をすればなんとか借してもらえてます。

ただ山の難点は少し傾斜があるのと石ころが喫在していること。もしここを開発できれば、乳牛か、肉牛、鶏などの飼養も可能ですが、畑一ha、労力的に人数が確保できれば山林一〇haニ五ha田畠三〇haも話をすればなんとか借してもらえてます。

ただ山の難点は少し傾斜があるのと石ころが喫在していること。もしここを開発できれば、乳牛か、肉牛、鶏などの飼養も可能ですが、畑一ha、労力的に人数が確保できれば山林一〇haニ五ha田畠三〇haも話をすればなんとか借してもらえてます。

おしらせ

第三次備北開拓へ

七月、八月の約二ヶ月間

滞在期間は任意です

あなたの都合のよい期間を

お知らせ下さい。一日だけで帰られても何日いてもかまいません。

ません、食費、作業衣、持つて来る人は震袋。

運送先、大阪市旭区大宮中央郵便局留。尾閻弘マテ

現代のアキズム運動 尾閻弘著

三一新書 350円

「情況」増刊号、ライヒ特集

テキスト、ヴィルヘルム、ライヒ

「性と文化の革命」

現代思潮社、九〇円

勁草書店、六〇円

参考マテ

「情況」増刊号、ライヒ特集

テキスト、ヴィルヘルム、ライヒ

「性と文化の革命」

現代思潮社、九〇円

勁草書店、六〇円